

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

楽しい時間は、あっという間にすぎてしまいます。反対に、病院の待合室で名前をよばれるのを待っているときは、時間がなかなか進まないように感じます。時計は同じ速さで進んでいるはずなのに、なぜ、このようなちがいが生まれるのでしょうか。

一つの考え方は、時間に気がつく回数がちがうことです。待っているときは、ほかにすることがないので、つい何度も時計を見てしまいます。見るたびに「まだこれだけしかたっていない」と気づくので、時間が長く感じられるのです。一方、友だちと遊んでいるときは、夢中になって、時計のことなどわすれています。ふと気づいたときには、もう帰る時間になっている、というわけです。

ところが、ふしぎなことに、あとから思い出すときには、これが反対になることがあります。遠足のように楽しいことがたくさんあった日は、思い出すことが多いので、長く、中身のつまった一日だったように感じられます。何もせずに待っていただけの時間は、思い出すことがほとんどないので、短く感じられるのです。

このように、わたしたちが感じる時間の長さは、時計の時間とはちがいます。その時間をどうすごしたかによって、のびたりちぢんだりするのです。

(この問題のための書き下ろし)

問一 待っているときに時間が長く感じられるのは、何をしてしまうからですか。「～しまいました」につづくように、本文から十字までで書きぬきましょう。

問二 「これが反対になることがあります」とありますが、どういうことですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 楽しい時間は、その場にいるときも長く感じられること。

イ あとから思い出すと、楽しかった時間のほうが長く感じられること。

ウ 待っていた時間は、あとから思い出すと長く感じられること。

--

問三 遠足の日が、あとから思い出すと長く感じられるのはなぜですか。四十字までで書きましょう。

問四 この文章の書き方として、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 時計の仕組みを、順番にくわしく説明している。

イ 待ち時間を短くする方法を、三つ挙げている。

ウ 時間の感じ方を、その場にいるときと、あとから思い出すときに分けてくらべている。

--